

ネットハウス利用によるキク栽培の特徴

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

1 部門名

花き - キク - 作型・栽培型

2 担当者

鈴木安和・安齋正典

3 要旨

ネットハウス栽培(写真)は、露地栽培と比べてパイプハウス栽培と同等にオオタバコガの害を減少することができ、生育量が増加した。また、殺虫剤散布回数を露地の55%に低減することができた。

(1) ネットハウス区の切り花長は露地区に対し11~17%伸長したが、節数は被覆の有無により差がなかった(表1)。この差は、節間長の増加により切り花長が増加したものと考えられた(表1)。

(2) 露地でオオタバコガの食害が多発し、被害茎が11~28%出たが、ネットハウス及びパイプハウスには食害は見られなかった(表2)。

(3) 葉先枯れ症状は小ギク「夕映」では、ネットハウスで19.5%、パイプハウスで5.9%見られ、露地に対して症状が発生しやすかった(表2)。したがって、葉先枯れ症状の出やすい品種はネットハウス栽培を避ける。

(4) 薬剤散布の目安は発生初期とし殺虫剤の散布回数を計測したところ、露地に対してネットハウスで55%、パイプハウスで67%であった。ネットハウスはパイプハウスと同等以上に殺虫剤の散布回数を減らすことができる。



写真 ネットハウス栽培

表1 ネットハウス栽培による小ギクに対する開花及び生育に及ぼす影響(2007年)

品種	色	試験区	採花期 ¹⁾			切り花長 (cm)	切り花重 (g)	節数 (節)	茎径 (mm)
			始期 (月/日)	盛期 (月/日)	終期 (月/日)				
せせらぎ 白	0.4mm被覆区	9/12	9/14	9/16	101.0	c	104.8 a	54.2 a	5.9 a
	1.0mm被覆区	9/10	9/14	9/19	98.5	b	123.6 b	53.7 a	6.5 b
	露地	9/12	9/16	9/19	88.9	a	98.3 a	53.2 a	5.8 a
やぶさめ 黄	0.4mm被覆区	9/10	9/12	9/16	117.1	b	142.4 ab	47.4 a	5.6 a
	1.0mm被覆区	9/10	9/12	9/16	115.3	b	155.6 b	46.6 a	7.5 a
	露地	9/10	9/14	9/19	100.5	a	135.1 a	45.5 a	5.6 a
夕映 赤	0.4mm被覆区	9/10	9/14	9/19	96.5	b	109.3 a	32.9 a	6.6 a
	1.0mm被覆区	9/12	9/16	9/21	96.1	b	117.6 a	32.8 a	6.8 a
	露地	9/12	9/14	9/16	86.5	a	118.5 a	33.3 a	6.8 a

採花は3輪開花時

Tukeyの多重比較法により、異符号間に5%水準で有意差あり

1)採花期:始期(10%採花時)、盛期(50%採花時)、終期(90%採花時)

表2 栽培法の違いによる病害虫及び葉先枯れ症状の発生(2008年)

栽培法	オオタバコガ		葉先枯れ症状
	被害率 ¹⁾	発生率 ²⁾	
0.4mmネットハウス	0	19.5	
パイプハウス	0	5.9	
露地	28	0.0	

1) 調査日:2008年9月9日 品種:三宝

2) 調査日:2008年7月7日調査 品種:夕映

1茎当たり上位10葉測定し、30本2反復調査

4 主な参考文献・資料

(1) 平成18~20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2006~2008)